

国立大学アドミッションセンター

連絡会議ニュース

NATIONAL
UNIVERSITY
ADMISSION
CENTER

第 5 号
2008 年 1 月

国立大学アドミッションセンター連絡会議 第5回総会開催

平成19年（2007年）5月29日14時から、東京都新宿区の新宿NSビルの会議室において、国立大学アドミッションセンター連絡会議第5回総会が開催されました。

今回の総会には、加盟16大学及びオブザーバーの7大学（岩手大学、千葉大学、横浜国立大学、新潟大学、富山大学、岡山大学、香川大学）から66名が出席しました。また、来賓として文部科学省から高等教育局大学振興課大学入試室長の谷合俊一室長、児島昌樹室長補佐、小笠原千寿係長をお迎えし、谷合室長にご挨拶をいただきました。

総会では、役員の変更・交代、3大学の新規加盟の承認、会則の改正及び事務局からの報告に引き続いて、大学からの報告としては茨城大学入学センターの池谷センター長から「茨城大学入学センターの活動と課題」の報告があり、これに関連して各大学のAO選抜の現状等についての質疑応答や討論が行われ、16時に閉会しました。

以下は、総会議事要録、総会における会長及び来賓挨拶の要旨です。紙面の都合上、全文掲載できませんことをご了承くださるようお願いいたします。



国立大学アドミッションセンター連絡会議 第5回総会議事要録

日時	平成19年5月29日（火） 14時～16時
場所	新宿NSビル3階 305会議室
出席者	23大学（16加盟大学及びオブザーバー7大学）から66名
来賓	文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室長
陪席者	文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室長補佐、入試第二係長

議 事

議事に先立ち、会長及び来賓から挨拶があった。

（1）役員の変更等について（柴田会長）

①会長及び事務局長の変更について

任期満了に伴う会長及び事務局長の変更について、幹事による協議を行った結果、柴田洋三郎現会長（九州大学理事・副学長）の再任、武谷峻一九州大学高等教育開発推進センター教授の事務局長就任を推薦することとなった旨の説明があり、承認された。

②幹事の定数変更について

加盟大学数の増加に伴い幹事も増員すべきとの意見を受け、幹事による協議を行った結果、幹事を6名とすることを提案することとなった旨の説明があり、承認された。

（2）新加盟の承認について（柴田会長）

岩手大学大学教育総合センター、富山大学アドミッションセンター及び香川大学アドミッションセンターからの加盟申請について説明があり、承認された。

（3）会則の改正について（白川事務局長）

幹事の定数変更、新加盟の承認及び下記の加盟機関の名称変更による会則の改正を、資料3のとおり承認した。

①（新）愛媛大学アドミッションセンター（平成19年4月1日変更）

（旧）愛媛大学学生支援センター

②（新）九州大学高等教育開発推進センター（平成18年6月1日変更）

（旧）九州大学高等教育総合開発研究センター

（4）事務局からの報告について（白川事務局長）

①会計報告について

連絡会議運営費規程第4条に基づき会計報告が行われた。

（5）大学からの報告について

茨城大学の池谷教授から、「茨城大学入学センターの活動と課題」というテーマで報告があった。

挨拶要旨

柴田 洋三郎 国立大学アドミッションセンター連絡会議会長

皆様、こんにちは。第5回の国立大学アドミッションセンター連絡会議の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

本日は皆様ご多用なところお集まりいただきありがとうございました。また特に来賓といたしまして、本日は文部科学省高等教育局の大学入試室長でいらっしゃいます谷合様、室長補佐の児玉様、それと係長の小笠原様がご来席されておられますので、ご紹介させていただきます。

この会も第5回を迎えまして、国立大学におきますアドミッションオフィス、あるいはいろんな名称がございますけれども入学者選抜のお世話等につきます部署としてのアドミッションセンターというのが定着したところでございます。

ご承知のように、近年少子高齢化時代を迎えまして、大学に入ってくる志願者の数がだんだんと大学の収容定員と均衡してきているというように巷では噂されていますけれども、我々国立大学にいる者としては、まだまだそういう状況にはないことだと思います。国立大学協会の入試委員会におきましても、そのような観点の議論ということではまだされておりませんが、現在ご承知のように教育再生会議とか経済財政諮問会議等で、国立大学の役割の観点から入学者の選抜についていろんなご要望が出ているということをご承知の通りだと思っています。そういう議論の中で国立大学協会の中でも、国立大学の役割あるいは国立大学における入学者選抜の機能、意義ということをしっかり議論しているところでございまして、先日もいろんな会議の答申等で複数入試機会の実施、それから現状の分離分割方式の見直し、秋季入学等の議論が行われているところでございます。私も国立大学協会の入試委員会の専門委員として議論に加わっておりますが、改めて国立大学の役割の中における入学者選抜の公共的な機能、公共的な役割というのを再確認した上で、あるべき姿を今後も検討していくという方向性を今とっているところでございます。一般入試としての前期・後期の分離分割方式が基本にあるわけですが、本日もご列席の方々が主に携わっておられますAO入試、あるいはAO選抜というものの機能も、多様な入学者選抜の観点からますます重要性が見直され、改めて認識されてきているところだと思います。

特に国立大学が、国立大学法人として自主自立的な教育研究を行うということが社会的に強く求められて、また中期計画・中期目標に沿った教育を実施す



るという観点から、業績評価等が絶えず説明責任として求められている時に、入試あるいは入学者の業務についての専門部署としてのアドミッションセンターの役割は非常に重要なところでもございますし、またAO選抜等多様な選抜方法で選ばれた学生の入学後の評価、パフォーマンス等を追跡するという事は、一般入試と比較してあるべき選抜の姿、あるいはあるべき大学における教育のシステムを検討する際に非常に貴重なデータを集めていると考えている次第であります。

また最初に申し上げましたように、今の少子化の時代、わかりやすい言葉で全入時代というそうでございますが、国立大学はまだそういう状況にはないのでしょうか、そういう時にあるべき選抜の姿がどうなるのか、日本には790くらい大学があるそうですけれども、そういう大学と同列で国立大学が学生を集めてもいいものかどうか、やはり日本の基幹的な人材を育成する高等教育機関としての国立大学の役割を自覚しつつ、どういう具合に人材を養成していくか、素材を集めるかということは今後とも高等学校等と連携を取りながら進めていく必要があると思いますし、その接続の部分に位置する大きな役割を果たしているアドミッションセンターの意義というのは随分と大きいものがあると思っております。

この会も5回を迎えまして、皆様方集まって連絡協議を行い、認識を深め、いろいろと資するところが多々あると思います。本日は短い時間ではございますけれども、ぜひ実りある議論が行われ、情報交換等、収穫を持って今後のアドミッションセンター、特に国立大学におけるアドミッションセンターの役割を再確認する良い機会になればと祈念する次第でございます。

簡単でございますけれども、以上をもちまして本日の開会の挨拶とさせていただきます。

ご挨拶要旨

来賓 谷合 俊一 文部科学省 大学入試室長



ご紹介をいただきました文部科学省大学入試室長の谷合と申します。

本日お集まりの皆様におかれましては、日頃からそれぞれの大学で大学入試の実施、あるいは改善に大変ご尽力いただきまして、この場を借りてお礼を申し上げます。

本連絡会議は5回目の開催ということで、伺っておりますところでは昨年は茨城大学、愛媛大学が加盟し16大学、今年は岩手大学、富山大学、香川大学が加盟する予定であると伺っております。本会議がますます発展されることをお喜び申し上げます。

先ほど柴田先生からお話ございましたように、現在大学入試に関しましてはかなりいろんなところで議論がなされております。教育再生会議、経済財政諮問会議ですとか様々な政府諸会議で、大学・大学院改革の中の一つの柱として議論されている状況でございます。そして、昨年は高等学校の未履修の問題もあったりして、文部科学省としましても、この機会にそうしたこととかかわる大学入試について、中教審の中で議論を開始しているところです。政府諸会議の方では経済財政諮問会議で、柴田先生からございましたように、国立大学の入試について、現在の分離分割方式ではなくてと言いますか、それは置いておいて、とにかく国立大学を複数受験できて、日にちを変えて極端に言えば5回くらい、なおかつ複数合格できる、そして受験生が大学を選べるようにしてやろうという提案もあります。その意図は、最近のキーワードに出てきますけど選択と集中ということで、要は受験生の側から大学を選ばせる、受験生がどの大学を選ぶかというのが大学の評価を一番的確に表しているというのが諮問会議での主張です。評価というのはそんな単純なものではないと思いますけれども、それによって大学が評価され、人気のある大学にはいっぱい集まって、合格した人はそこに入れるだろうし、そうでないところは人が来ないかもしれないし、受かっても人が逃げてゆくという、それが端的に言えば大学の評価というようなことです。これに対しては、やはり、そもそも国立大学は何のためにあるのかということから考えていかなければならない。つまり私立大学であればそういう考えは成り立つというか実態としてもそうなっていると思いますが、果たして国立大学はこれでそれぞれの役割を今後とも果たしていけるのかということから考えなくてはならないだろうと思っています。そして私たちも、文部科学省もそういう考えは言ってゆきたいと思っておりますし、そしてぜひ、それぞれの国立大学の関係の方、あるいは国大協の方からも、そういっ

たことを声を大きくして言っていただければいいのではないかなと思っているところでございます。

それから先ほどもございましたように、今いわゆる大学の全入時代と言われております。先ほどの柴田先生のお話では国立大学はまだそういった全入という感じではないということで、多分そうだと思うのですけれども、やはりそうは言っても全体の子供が減っている状況の中でだんだんそうした状況に近づくことはあろうかと思えます。そういった時にどういう選抜をしていくかという、従来型の選抜もあるのでしょうかけれども、やはりパイが小さくなっていく中でできるだけ大学としてもこういう学生が欲しい、学生から見てもぜひこの大学に入りたいというか、マッチングを図っていくというか、いわばお見合いのようなことによって、少ない集団の中から大学も学生も望む形で入っていくことができるといったような入試を考えていくという必要性が相対的に高まっているのかなと思えます。そうした中で、こうしたアドミッションオフィス入試、非常に手間のかかる取組みで大変だと思えますけれども、やはりこういった時代にあってAO入試の効果というのはますます高まっていくのではないかなと思っているところでございます。

大学全体としては、アドミッション入試もかなり増加してはいますが、圧倒的に伸びているのは私立です。国公立の方はもちろんじわじわと増えてはいるのですが、伸び率からしたら少し緩やかな感じですが、私立がAO入試をする意味合いというのは若干いろんな要素があるのだろうと、そこには善し悪しも多分あると思っています。こうした中で、国立大学がいろいろ通じてAO入試をやっていたかということは、やはり私立大学に対してもお手本になるでしょうし、そうしたやり方でやらなくてはということをして是非広く対外的に見せていただけるとありがたいなと思っています。

また、平成17・18年度2カ年にわたりまして、当方の委託事業としましてAO入試の現状にかかる調査研究ということをして筑波大学の白川先生に取りまとめをお願いして、各大学のご協力をいただきました。この場を借りて御礼を申し上げます。

最後に、本日の総会で活発な情報交換とセンター間での交流が図られることにより、我が国の全体としての入学者選抜が一層整うことを願ひまして、簡単ですが挨拶とさせていただきます。

大学
からの
報告

茨城大学入学センターの活動と課題

茨城大学入学センター センター長 池谷文夫

ご発表とパワーポイントの資料を基に要約しました。

◆ 経緯

2004年4月「(仮称) 入学戦略センター」設置検討ワーキンググループ発足、報告書作成。

2005年4月「入学センター」設置準備室を設置。

2006年1月「入学センター設置」最終報告作成、5月「茨城大学入学センター」発足。

◆ 設置の趣旨と目的

- 本学の入学者選抜及び入学者確保について、現状の諸問題の解決・改善を図る。
- 法人化後に加わる新規業務及び現在未実施ないし不十分な業務を適切に遂行する。
- 学長直属の担当機関として適切な組織・機能を備え、全学的に業務を遂行することを目的とする。

◆ 入学センターの組織

学長直属のセンター（入試関係委員会を全て吸収）

- センター長（併任）

- 入学者選抜部門

兼務教員10名（各学部2名、任期2年、半数交代）／臨時兼務教員併任1名（情報処理担当）、学長指名の兼務教員1名

- 企画開発部門

副センター長（併任）

専任教員1名（学生募集・入試広報担当）／専任的兼務教員1名（入学戦略・点検評価担当）／兼務教員10名（各学部2名、任期2年、半数交代）

- 学務部入学課がセンターと一体となって業務遂行する。

◆ 入学センターの業務

1. 入学者の確保施策の企画開発・実施
2. 全学統一の入学者選抜の体制の構築と実施
3. 当該年度の全学入学者選抜の実施及び総括・連絡調整・指導・支援

4. 全学学生募集・入試広報体制の構築・運用
5. 入試情報の発信ベース基地機能
 - ・入学者選抜部門 全入学者選抜を実施し、総括・連絡調整・指導・危機管理等を展開
 - ・企画開発部門 点検評価及び入学者確保策の遂行・戦略的検討・学生募集・入試広報のコーディネート及び入学者選抜方法の点検評価・データ分析等による入学者選抜のサポート

◆ 茨城大学の中期目標・中期計画（入学者受入に関して：入学センター発足前）

- ・中期目標：本学の教育目標に沿った各学部の入学者受入方針の明確化及び公開
中期計画：入学者受入方針のホームページ等での公開及び入試情報の発信による受験者の確保
- ・中期目標：多様な入試方法の策定による入学者選抜方法の改善
中期計画：入試成績、入学後の成績等の追跡調査による入学者選抜のための基礎資料の作成及び選抜方法改善へのフィードバック

◆ 入学センターの中長期計画・本年度計画

中長期計画

- ・入学者確保のための「茨城大学入学者選抜の実施教科・科目及び配点」の抜本的見直し及び適正化
- ・入学者確保施策を踏まえた選抜方法、選抜区分、募集人員の点検及び検討
- ・大学全入時代を踏まえた入学者確保施策の構築及び実践
- ・学生募集・入試広報活動強化及び入学者選抜試験に関する協議等のための茨城県教育委員会及び茨城県内進路指導教諭連絡協議会との連携強化及び具体的施策等の確立
- ・入学者確保のための各種リクルート活動及び実施組織体制・人員の早期確保

19年度計画

- ・全学的に連携した入学者確保のための入学者選抜方法の改善及び学生募集・入試広報体制の構築とその円滑な実施をすすめる。
- ・入学センターの整備をすすめる。
- ・入学者選抜の確実・適切な実施を進める。

◆ 今後の業務展開（学外説明会）（企画開発部門）

- ・過去の開催実績
平成17年：50回（県内24回、県外4回、学内22回）
平成18年：41回（県内13回、県外7回、学内21回）
- ・今年度開催予定
これまで（5月）計22回開催／今後の開催が現時点で決定しているものが6回
（更に追加的に開催予定）

◆ 今後の業務展開（オープンキャンパス）（企画開発部門）

- ・過去の来場者数
平成16年度：3,550人／平成17年度：3,967人／平成18年度：4,053人
- ・今年度開催予定
全学部対象：7月28日（土）@水戸キャンパス（参考：約5,400人来場）
工学部対象：7月21日（土）@日立キャンパス
農学部対象：7月22日（日）@阿見キャンパス

◆ 今後の業務展開（入学戦略研究会）（企画開発部門）

- ・従来、学長主催で行われてきたものを引き継ぎ、「地域に開かれた大学」という目標実現のため、高校から見える茨城大学像や本学への期待等、県内全高校の進路指導担当教諭の方々から意見を頂いている（これまでに計4回開催）。
- ・今年度開催予定
9月最終週 水戸・阿見キャンパスにて各1回（9/25阿見、9/28水戸で開催した。）

◆ 入学センターの整備

- ・施設・設備について
- ・スタッフの充実について
以上は今後の大きな課題である。
- ・運営体制の整備
19年度に一層の整備が進んだ。

◆ 入学戦略会議

入学センターの上部会議

構成員：学長（議長）、副学長、学長補佐、各学部長、大学教育センター長、留学生センター長、入学センター正副センター長、学務部長

開催：年2～3回程度

審議事項

- ・入学戦略の基本方針に関する事。
- ・入学者選抜制度の改革に関する事。
- ・入学者確保のための学生募集及び入試広報に関する事。
- ・茨城大学アドミッションポリシーに関する事。
- ・入学センターの中期目標及び中期計画に関する事。
- ・入学センターの年度計画に関する事。
- ・入学センターのセンター長、副センター長及び専任教員の選考に関する事。

◆ 茨城大学「大学教育機構」(仮称)

早期の構想の実現を目指したい。その中に入学センターは整合的に位置づけることが可能である。

池谷茨城大学入学センター長からの報告発表の後、柴田会長の司会により、発表に対する質疑応答を行った。また発表に関連して、主に

- ・進学説明会への参加
- ・出前授業や高校訪問
- ・高校から見たAO入試

に関して、各大学からの状況報告を基に活発な意見交換が行われた。



国立大学アドミッションセンター連絡会議会則

制定 平成15年 6月 4日

改正 平成17年 6月 1日

改正 平成18年 5月31日

改正 平成19年 5月29日

(名称)

第1条 本会は国立大学アドミッションセンター連絡会議と称する。

(目的)

第2条 本会は、高等学校・大学間の接続関係の改善及び加盟機関における入学者選抜等の業務改善に関する研究協議を行い、あわせて加盟機関相互の交流促進を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

(構成員)

第4条 本会は、国立大学のアドミッションセンター、及び国立大学において高等学校・大学間の接続関係の改善に関する研究及び実践に携わる機関によって構成する。

2 本会の加盟機関は、次に掲げる機関とする。

北海道大学高等教育機能開発総合センター

旭川医科大学入学センター

岩手大学大学教育総合センター

東北大学入試センター

茨城大学入学センター

筑波大学アドミッションセンター

福井大学アドミッションセンター

富山大学アドミッションセンター

静岡大学全学入試センター

京都工芸繊維大学アドミッションセンター

鳥取大学アドミッションセンター

広島大学入学センター

山口大学アドミッションセンター

香川大学アドミッションセンター

愛媛大学アドミッションセンター

高知大学アドミッションセンター
九州大学高等教育開発推進センター
長崎大学アドミッションセンター
鹿屋体育大学アドミッションセンター

3 新たに入会しようとする国立大学の機関は、総会の承認を得るものとする。

(役員)

第5条 本会に以下の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 事務局長 1名
- 三 運営委員 各加盟機関からの代表 1名
- 四 幹事 運営委員の中から会長の委嘱 6名

2 会長及び事務局長は総会において選出する。任期は2年とし、再選を妨げない。

3 役員は加盟機関の代表をもって、これにあてる。

(役員の仕事)

第6条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

2 事務局長は、本会の運営に必要な事務全般を行う。

3 運営委員は、本会の運営に携わる。

(事務局)

第7条 本会に、本会の事務を処理するための事務局を置く。

2 事務局は、事務局長の所属する機関に置く。

(雑則)

第8条 この会則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は本会が別に定める。

附 則

この会則は、平成15年6月4日から施行する。

附 則

この会則は、平成17年6月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成18年5月31日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年5月29日から施行する。

国立大学アドミッションセンター連絡会議役員 2007年度

会 長：柴田洋三郎（九州大学理事・副学長）
 事務局長：武谷峻一（九州大学高等教育開発推進センター教授）
 運営委員：下表
 幹 事：下表の*

国立大学アドミッションセンター連絡会議運営委員

所 属	職 名	氏 名	TEL	メールアドレス
北海道大学	入学者選抜研究部長	加茂 直樹 *	011-706-3923	nkamo@pharm.hokudai.ac.jp
旭川医科大学	教 授	坂本 尚志	0166-68-2631	sakamoto@asahikawa-med.ac.jp
岩手大学	准 教 授	永野 拓矢	019-621-6926	tnagano@iwate-u.ac.jp
東北大学	教 授	石井 光夫 *	022-795-4812	mitsuo-ishii@mail.tains.tohoku.ac.jp
茨城大学	セ ン タ ー 長	池谷 文夫	029-228-8096	ikeya@mx.ibaraki.ac.jp
筑波大学	セ ン タ ー 長	白川 友紀 *	029-853-7185	shirakawa@esys.tsukuba.ac.jp
福井大学	准 教 授	大久保 貢	0776-27-8644	ohkubo@kyomu1.fuee.fukui-u.ac.jp
富山大学	教 授	上田 一郎	076-445-6248	iueda@ctg.u-toyama.ac.jp
静岡大学	セ ン タ ー 長	寺下 榮	054-238-2447	terashita@adb.shizuoka.ac.jp
京都工芸繊維大学	教 授	大嶋 知之 *	075-724-7093	oshima@kit.ac.jp
鳥取大学	教 授	中村 肖三	0857-31-5840	snakam@zim.tottori-u.ac.jp
広島大学	セ ン タ ー 長	杉原 敏彦 *	082-424-5839	tosisugi@hiroshima-u.ac.jp
山口大学	セ ン タ ー 長	富永 倫彦	083-933-5045	tom21@yamaguchi-u.ac.jp
香川大学	副 セ ン タ ー 長	真鍋 芳樹	087-832-1187	manabe@kms.ac.jp
愛媛大学	副 セ ン タ ー 長	井上 敏憲	089-927-8113	tinoue@iec.ehime-u.ac.jp
高知大学	セ ン タ ー 長	八木 文雄	088-880-2271	yagif@kochi-u.ac.jp
九州大学	教 授	武谷 峻一 *	092-642-4489	takeya@ac.kyushu-u.ac.jp
長崎大学	教 授	大作 勝	095-819-2115	ohsaku@net.nagasaki-u.ac.jp
鹿屋体育大学	セ ン タ ー 長	児玉 光雄	0994-46-4982	m-kodama@nifs-k.ac.jp

編集後記

- 第5回総会でいただきました本会議の柴田洋三郎会長、文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室の谷合俊一室長のご挨拶と、茨城大学入試センターの池谷文夫センター長のご報告を掲載させていただきました。
- 会長、来賓の挨拶では、昨今の政府関係会議等での大学入試を巡る議論が紹介され、少子化や大学全入時代における入試のあり方、ひいては国立大学のあり方への注意喚起がなされました。特にAO入試に関しては、大幅に広がりつつある私立大学でのAO入試に対して、国立大学が範となるべきAO入試を示すべく、本会議への期待が大きいことを感じました。
- 茨城大学の池谷入学センター長のご報告では、同センター発足までの経緯や、センターの任務・業務展開などを紹介いただきましたが、お言葉の端々に、どの大学でも同じですが、思惑が違う学部間の調整や取りまとめのご苦労がにじみ出ていました。また、茨城大学では、学長を議長とする「入試戦略会議」で入試の全てを統括するという体制を築かれています。名称に敢えて「戦略」という言葉が入れているということに、同大学の入試に対する決意が示されているとも感じました。
- 総会の際に撮影いたしました写真も掲載させていただきました。
- 今年は全国的に寒気が入って、大変寒いお正月で新年を迎えました。これから3月まで、国立大学では一般選抜を中心に入試本番となります。みなさま大変お忙しいことと存じますが、新年度に向けてご健勝をお祈り致します。

(S.T)

第6回総会 開催案内

平成20年度の国立大学アドミッションセンター連絡会議の第6回総会を、次のように開催いたします。

日時 平成20年5月25日(日) 14:00~16:00

場所 新宿住友ビル47階 住友スカイルームA2

東京都新宿区西新宿 2-6-1

なお、平成20年度の全国大学入学者選抜研究連絡協議会の第3回大会は、この連絡会議総会の翌日から2日間（5月26日(月)~27日(火)）、昨年度と同じ国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される予定です。

国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース 第5号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議

編集：九州大学アドミッションセンター（連絡会議事務局）

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

TEL:092-642-4486 FAX:092-642-4485